

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401680		
法人名	有限会社ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホームおもひで懐1階		
所在地	北海道函館市山の手2丁目5番16号		
自己評価作成日	平成24年12月14日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家のような家庭的な雰囲気を残さず、手作りの料理と温泉でゆったりと生活していて、タクティールケアや訪問マッサージなど利用者の為になるものであれば積極的に取り入れている。ボランティアでは、読み聞かせグループのおはなし会が月1回、音楽療法士さんが隔週で訪問してくれ、普段から外出の機会を多く持ち、計画的・突発的に出かけて、季節を味わうことができる。

また、毎月のおしらせでご家族に様子を逐一報告しており、その他アルバムを作って面会時にご家族と一緒に見たり、普段入居者同士で見て楽しんだりしている。

スタッフは研修会などに積極的に参加したり、各種委員会を設置することでケアの維持向上に力をいれ、キャリアアップにも積極的に介護福祉士や介護支援専門員の合格者も出ている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0171401680-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は傾斜のある住宅地に立地し、2階からは市内が展望できる。また近くには桜やつつじが有名な公園もあるため、季節感が十分に楽しめるホームとなっている。このホームの優れた点は、徹底したバイタルチェックとそれに呼応した医療面からの支えである。バイタルは必要な項目を1ヶ月分一枚の体温等の温度版で集約し、血圧、体温、食事量、水分摂取、体重等を折れ線グラフで簡略化し、わかりやすくして利用者家族に伝えている。また介護計画書には医師が要望や意見を添える欄があり、医療の視点からの意見の添付は、介護計画をより質の高いプランへと導いている。日々の生活の支援についても、介護日誌にモニタリングとして克明に記載し、誰でも介護計画の成果について判断できるよう工夫がなされている。バイタルの詳細な報告、医療面でも充実した介護計画、計画に沿った支援の実情の把握と、原則に徹した介護の実践に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人格を尊重し、その人らしさを支え、共にこの地域で「おもいで」をつくるという理念に基づいて実践に取り組んでいる。	玄関や居間に理念を掲示し、利用者、家族、職員で共有するように努めている。毎朝申し送り時に唱和し、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、クリーン作戦などの町内会行事に参加したり、事業所で夏祭りを開催したり、函館独自の七夕などで地域近隣の方々と交流している。	町内会に加入し、夏祭りや七夕の行事に参加している。また認知症サポーター養成講座を開催し、広く認知症の理解を促している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催して、認知症に悩む方々への、認知症介護の啓発をしたり、相談を受けるなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度必ず開催している運営推進会議では、サービスの向上を目的とした活発な意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、町内会役員・行政・家族委員の参加を得ている。火災訓練の感想や意見等を聴き取り、議事録は全委員と利用者家族に送付し、意見交換内容を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護高齢福祉課や地域包括支援センターと共に話し合いを多くもち、協力できる体制を築いている。	包括支援センターと市の行政窓口とは、普段から交流があり、何事も相談できる関係を保っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会をミーティングや会議などの際に、管理者を中心として、資料を配布したり掲示するなどしたり、転倒などのリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を話合っている。	身体拘束防止委員会が機能しており、研修の実施や身体拘束の具体的事例について、日々チェックする体制で拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会をミーティングや会議などの際に、管理者を中心としてケアの状況により指導したり全員で討議するなどして虐待防止に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修をすでに修了しており、また実際に対象者がおり、任意後見人制度の申請の手助けをして、利用に至った実例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に余裕のある時間で行い、サービス内容など詳しく説明し、その都度疑問点などないか確認しており、十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に受付窓口、責任者を電話番号とともに、また公的な第三者機関機関の相談窓口も明示し、相談・苦情を気軽に言ってもらえるように日頃か話し、玄関にはご意見箱を設置するなど意見が反映できるようにしている。	家族から意見や要望が出やすいよう、「園便り」で多くの情報を伝え、来所時には直接意見を聞いたり、投書箱を用意し意見の聴取と反映に取り組んでいる。	現状においても、家族からの意見を受け入れる体制にあるが、より積極的な姿勢として、満足度アンケート等による意見の受け入れについて検討するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス以外でも普段から運営に関しての意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、管理者が意見をまとめて運営者に定期的に話す機会を設けている。	各種会議を通じて、申し送りに意見を加筆する欄を設け、意見が出やすい工夫をしたり、年に一度定期的な面談を実施しながら、職員の意見提案に備えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員の離職などで利用者が受けるダメージを認識し、福利厚生面についても極力、職員の希望を取り入れるよう努力している。年1回であるが、リフレッシュのための5連休を交代で取るなどし、年次有給休暇はできるだけ消化できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は、職員の段階に応じ、積極的に研修会等の受講や、国家試験受験の為に応援に努め、働きながら介護福祉士合格者や、介護支援専門員合格者もでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、勉強会、ブロック別会議などで交流があり、この事によりサービスの質の向上に大きく影響がある。また、職員の参加希望も多い状況となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予約段階から、管理者が訪問して事前に、ご本人様とよく話し合う機会を設けて信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予約段階から、管理者が定期的に電話や訪問して事前に、ご家族とよく話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と運営者、ケアマネージャーが連携し、できる限り運営者もご本人・家族に事前に訪問し状況確認しまた、他サービス事業所や医療機関に問い合わせながら、最適なサービスが受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩として、孫のような職員に格言で人生を語り、職員も、また、それを素直に受け入れ、「支え合う」という、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時などに、ご本の様子や状況を伝え、時にはご本人を安心させてもらえるように声をかけてもらうなどして、職員と連携しながらご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の面会も受け入れたり、なじみの理美容室や商店、病院などへ行くなどの支援も行っている。	昔なじみの商店や病院、床屋へ行くなど、利用者と地域との関係が断ち切れないように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士が過ごせる配慮をしたり、良い関係が作れるように配慮している。トラブル発生時は早急に原因の把握、仲裁に入るなどして、お互いが不快な思いを残さないように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで退去された方の病院に必要時にかけ、ご家族や相談員に今後の方向性などを一緒に話し合ったり、電話での相談など、出来る限りのフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの希望に沿うために、ご家族や関係者から情報収集し、事業所理念に基づき、できるだけ本人本位になるように支援している。	日々の生活を支援する中から、本人の意向や希望を汲み取り、職員で共有し、利用者本位の生活になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴・ライフヒストリー等を聞き取りして、その後も定期的に連絡を取り合い、アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の人格を尊重し、本人ができる能力を伸ばすように働きかけている、自分でできる所は自分でやっていただき、できない所や補助が必要な所のみ援助し、現状の能力を総合的に判断している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を採り入れ、職員は日常の利用者の状態を申し送りとし、業務日誌に記録、それをケアマネジャーと話し合いのうえ、介護計画を作成している。	職員全員がケアプランに関わり、本人や家族の要望を聞き取り、医師の意見も参照し、プラン作成に至っている。実行については、プランに沿ったケアを毎日検証し、介護目標の達成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄状況などケアプランに基づく記録には青で線を引き、介護計画に実践や見直しに活かしている。特筆すべき事項などは連絡ノートなどで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合上、利用者の希望する用件、かかりつけ医の診察、冠婚葬祭、美容院、自宅への送迎等々が困難な場合、事業所がかかわって柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などで文化・教育機関などに行く際は必ず事前に連絡している。また夏祭りなどの行事では学生ボランティアを頼んだりしている。入居者の意向や必要性に応じて協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医への受診支援の他、医療連携している主治医の隔週での受診もを行っている。また、利用者の変化に気付いた場合は24時間体制で電話相談による支援も行っている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を受け入れているが、協力医の往診の体制があり、重複診療とならない程度に訪問看護や往診を行い、安心できる医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師が隔週(医師訪問とは別の週)に訪問して、状態観察や医療相談にのってもらっている。また職員にも、1名准看護師の資格を持っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院する際は、必ず職員付き添い、情報提供や今後の方針などを医師や他職員と相談する。また定期的に医療機関と連絡を取り合うばかりでなく、お見舞いに行き実際の様子を見たり、今後の方向性を相談員と話し合うなど積極的に相談・関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へは、終末期の事柄について重度化・看取りに関する指針を示し同意書を取っている。また医療連携している主治医とは24時間体制で連絡相談ができる体制を整えている。	早い段階から看取りや終末期のケアについて、説明し同意を得ており、出来る事と出来ない事を踏まえ、本人・家族の意向に沿い、最後まで支援できる様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、緊急対応のマニュアルを見えやすい場所に掲示しており、全スタッフが周知している。消防で行われている普通救命救急講習をほぼ全員履修している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回避難訓練を実施している。道南GH協会Bブロック内では、災害時に協力できるような体制ができている。	災害訓練を年に2回、地域住民の参加を得ながら消防の指導により実施している。また備蓄も3日間程度用意しており、非常時に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに関する内容はイニシャルを使用し排泄も1, 2, 3と暗号化することや、トイレ前に暖簾を置くことや誇りを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや人格の尊重は、排泄介助の際に直接的な表現をしない様に努める等、その人に配慮したケアになるよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の能力に応じて、常に複数の選択肢を用意したり選べるように支援している。また待つ姿勢を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望に添い、ドライブ、花見、外食等年間行事計画はあるが、それ以外での突発的に出かけることなど、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望や生活背景から、服装やおしゃれを支援する。本人、訴えられない方はご家族に確認し自分の好む理美容店に行けるように支援している。身体状況で行けない方もホームに業者を呼んで理美容している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その時にある食材を利用者とスタッフが話し合いながらメニューを決める。一人一人量の加減や苦手なものを除去するなど配慮している。利用者が自ら台所に立ち、簡単な調理をしたり、配膳や後片付けなども一緒に行う。	毎日の献立表はなく前日の栄養バランスを考慮し、その日の職員が利用者の要望を取り入れ調理している。後片付け・食器拭きなど利用者の出来る事を職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量をチェックを記録し、さらに管理者が再度チェックすることで、チェック漏れを防いでいる。特に目立った減量が見られる場合、医師から高栄養流動食の指示がもらい対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を、スタッフ全員が理解し、毎食後歯磨き・義歯洗浄を促し、困難な方は口腔ケアティッシュを使用するなど状況に合わせて支援するように努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックや排便チェックがされており、排泄の自立に向けて支援している。又失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて誘導している。	利用者に合わせてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。排泄の用語は記号化し、直接的な表現は避けるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やの提供や適度な運動、マッサージ等状態に応じて取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	管理者が約30km遠方より温泉水を汲み運び、週2度温泉入浴を楽しんでもらっている。また、入浴については、毎日利用出来る。	入浴は週2回以上を目安とし、近所の日帰り温泉や銭湯の家族風呂の利用など、楽しめる入浴になるよう、工夫を凝らして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない場合に添い寝や暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりしたり、個々の睡眠パターンに合わせて就寝時間を配慮する。また疲労や緊張の度合いに応じてこまめに休息が取れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは処方された薬の内容が記載された用紙を確認し、入居者が服用している薬の種類や副作用を把握し、指示通り服薬できるよう支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、編み物、園芸などあるが、利用者全員一致での楽しみは、月2回ボランティアで来訪する音楽療法士であり、この時ばかりは声を大きくし、楽しく歌っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、ドライブなど、個人に合わせた支援をしている。また、季節ごとに春は花見、夏は牧場、秋は紅葉、冬はクリスマスツリーなどの季節ドライブにみならず、普段でもドライブに出かけるなど、出来るだけ戸外に出られるよう支援している。	できるだけ多くできる事を念頭に、外出支援に取り組んでおり、季節のドライブのみに留まらず、散歩から買い物等外出の希望や提案を受け入れ実施し、暑さや寒さも体感できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。困難な方でも職員が付き添い買い物をして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	プライバシーに十分配慮しながら、電話や手紙等の通信を支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良い大きな南向きの窓があり、季節に応じてさりげない飾り物を変えて季節感を味わえるように心かけている。古民具の筆筒や火鉢なども邪魔にならない場所にさりげなく置いている。	事業所の2階は見晴らしが良く、開放感があり、採光にも優れて暖かく落ち着いた空間となっている。いたるところに古い家具や古道具が置かれており、より居心地の良さを作り出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間からすぐに出れるウッドデッキがあり、木のベンチにすわって、入居者同士で自由に話ができる場所あったり、それぞれ気兼ねなく休むソファや椅子がある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇が置いてあったり、懐かしい家族の写真を飾ったり、安心できる居室になるように配慮している。	居室はそれぞれの個性に溢れており、使い慣れた筆筒や椅子類のほか、仏壇も置かれており、本人にとって落ち着いた自宅となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレ、浴槽には手すりが設置されている。浴槽内には滑り止めマットを引き、浴槽移乗のための補助具なども設置し安全に努めている。台所はオープンキッチンになっているので、自然に台所に来て、作業ができる。			